

## 看護者の看護実践能力に関する研究 ―課業別の特性に焦点を当てて―

- 武藤雅子 高知女子大学看護学研究科  
岩田明子 東京医科歯科大学付属病院  
大浦祥子 岡山大学教育学部養護教諭特別学科  
橋本和佳 東京女子医大付属病院  
横手暁江 神奈川県立循環器呼吸器病センター  
山田 覚 高知女子大学

## 1. はじめに

人々の価値観やニーズが多様化する社会全般の傾向をうけて、医療界においても「質」を問われる時代になってきた。このような医療に対するニーズの変化に対応するために、看護界でも看護者の育成と自己学習による能力開発によって、質の高い看護を提供していかなければならない。

そこで私達は、看護サービスの質の向上において、「看護職員の能力開発」の重要性に着目し、能力開発に向けて必要な、看護実践能力の特性を清潔の援助などの課業別に明らかにすることを研究の目的とした。

## 2. 研究方法

①調査対象：高知県立 A 病院に勤務する同意の得られた看護者 192 名。②データ収集期間：平成 13 年 7 月 16 日～8 月 8 日。③データ収集方法：一対比較検査法を用いて看護者が中心となって行う 8 課業（清潔の援助、書類の記録・点検（整理）、与薬、カンファレンス、診療・治療の介助、報告・連絡・情報交換、療養上の指導、看護学生・看護者の教育）ごとに各看護実践能力（専門的知識、専門的技術、状況把握力、判断力、実行力、研究力、リーダーシップ、コミュニケーション力、理論的思考力）の重要度について質問紙を作成し、アンケート調査を行った。④データ分析方法：各課業における看護実践能力の重要度については、F 検定 / t 検定にて差の分析を行い、関係性については相関分析を行った。また、各看護実践能力における課業間の関係性について相関分析を行った。なお、本研究では相関係数  $r = \pm 0.41$  以上を取り扱っている。

## 3. 結果及び考察

192 部のアンケートを配布して、139 部を回収し、回収率は 72.40%であった。また、看護者としての平均経験年数は 20.07 年であった。

課業別に見た重要度の主な結果では、専門的知識、状況把握力、判断力は清潔の援助、書類の記録・点検（整理）など多くの課業において重要と捉えられ、他の能力は課業により重要度が変化することが明らかになった。書類の記録・点検（整理）における理論的思考力やカンファレンスにおけるリーダーシップ、療養上の指導におけるコミュニケーション力は重要な能力であることが明らかになった。重要度が変化する要因として、書類の記録・点検（整理）における理論的思考力は、記録が思考のプロセスであり、また患者の情報と理論を統合するために必要な能力である

ため重要と捉えられたと考えられる。カンファレンスにおけるリーダーシップは、チームメンバーを統率し、問題解決していくために重要であると考えられる。療養上の指導におけるコミュニケーション力は、まず患者との間に信頼関係を築き、効果的な指導をスムーズに進めるためにも重要となることなどが考えられる。

課業別にみた相関関係の主な結果は、与薬では、実行力と理論的思考力の間に負の相関( $r=-0.49$ )があった。カンファレンスでは、専門的知識とリーダーシップの間に負の相関( $r=-0.49$ )があった。報告・連絡・情報交換では、状況把握力と判断力の間に正の相関( $r=0.50$ )があった。与薬において実行力と理論的思考力との間に負の相関が見られたのは、実践と実践に至る過程のどちらかを優先した結果と考えられる。カンファレンスにおいて専門的知識とリーダーシップとの間に負の相関が見られたのは、メンバー間の意見の調整と問題解決のどちらかを優先した結果と考えられる。報告・連絡・情報交換において状況把握力と判断力の間に正の相関が見られたのは、有効な情報の活用という共通性があり、2つの能力を共に発揮すべきであると捉えられた結果と考えられる。

看護実践能力における課業間で行った相関分析は、「専門的知識」では療養上の指導と看護学生・看護者の教育の間に正の相関( $r=0.46$ )があった。この要因として、教育という課業の共通性があることが考えられる。「判断力」では書類の記録・点検とカンファレンスの間に正の相関( $r=0.42$ )があった。この要因として、情報管理、間接看護という課業の共通性があることが考えられる。「実行力」では与薬と診療・治療の介助の間に正の相関( $r=0.44$ )があった。この要因として、治療、直接看護という課業の共通性があると考えられる。「研究力」では清潔の援助と療養上の指導の間に正の相関( $r=0.50$ )があった。この要因として、生活に関する援助、直接看護という課業の共通性があることが考えられる。

#### 4. 結論

本研究を行った結果、課業により各看護実践能力の重要度や関係性が変化するという特性が明らかになった。このことは業務を一様に扱って看護者の能力評価を行うことの難しさを示唆してくれた。よって、能力評価は課業ごとの到達度を評価し、その到達度の視点に看護実践能力の重要度を用いることができるのではないかと考えた。これは、看護者自身の自己評価や自己研鑽、個々人に合った教育体制の整備につながるのではないかと考えられた。